

九州保健福祉大学

平成 30 年度  
健康管理センター活動報告書



九州保健福祉大学 健康管理センター

## はじめに

従来、健康管理センターは学生相談業務のみを担当していましたが、平成19年度より保健業務を加えることにより、学生相談室と保健室の2室構成となり、学生の心身の健康問題に総合的に対処できるようになりました。

教職員のみなさまには特定検診事業にご協力いただき感謝申し上げます。

改正健康増進法の成立により 7 月から大学では「敷地内禁煙」が原則になりました。「敷地内禁煙」なら「敷地内車乗り入れ禁止」もしないと整合性がとれないと考えますが・・・。

「医学書院 医学大辞典」によると、妊娠悪阻（にんしんおそ）【つわり】は妊娠初期に悪心、嘔気、食欲不振などの消化器症状を中心とする症状や食べ物の嗜好の変化が出現するが、この症状がやや重い状態をいうとされています。よくあるテレビドラマのシーンで、嫁と姑さんがいて、嫁が台所でゲーゲー吐いています。それをドアの隙間から見たお姑が「この人、もしかして？」と妊娠に思いをはせる。そんな場面がありますが、このころの胎児の大きさは米粒～小豆大なんです、どうして胎児はおかあさんにいたずらをするのでしょうか。

「個体発生は系統発生を繰り返す」は19世紀ドイツの生物学者ヘッケルの反復論といわれます。著書「一般形態学」の中で、「生物個体は、個体発生の急速かつ短縮された経過の間に、祖先が古生物的発生の緩やかな長い経過の間に遺伝および適応の法則に従って経過した重要な形態変化を繰り返す」と述べています。つまり私たち人類は、母親のお腹の中で、人類の5億年の進化の過程（魚類→両生類→爬虫類→哺乳類→ヒト）を10か月でたどっているということです。魚類から両生類を経る「上陸」が、生命進化の最もドラマチックなエポックメイキングであり、胎児の発生の段階でもここが一つのクライマックスとみられます。ここで初めて、ドラマチックにつわりが起こります。このときにお嫁さん（＝母親）の体内にいるのが、まさにこの上陸のドラマを繰り広げている胎児なのです。胎児もからだは、対水中仕様から陸上仕様へと変貌し、必死でからだの変化を生き抜いています。その苦闘が「つわり」となって現れます。胎児は、受胎の日から指折り数えて30日を過ぎてから僅か1週間で、あの1億2000万年を費やした脊椎動物の“幻の上陸劇”を夢のごとくに再現します。

ヒトの頭と胴体の間に、細くなったところがあります。それが首ですが、この首というのは、いったい何なのでしょう。ヒトの祖先をたどっていくと、脊

椎動物の始まりである魚には、首がありません。カエルにも首といえるような細くなったところはありません。魚の首（に当たるところ）には、えらがあります。えらは全部で6対あります。そして、このえらが、進化の歴史の中で、水中生活から上陸することで、なくなっていくます。えらの役割や存在の意味が、変わるのです。そこにひとつのくびれ、つまりくびができます。そして、えらは新しい役割と構造へと進化していきます。その新しい役割というのが、「表情運動」と「発声運動」ということになります。魚が「痛い」と言ったり、笑ったりすると怖いですね。むき出しのエラをゆっくりと顔や喉や肺へ変えていったといいます。くびれあるいはイケメンのほっぺたになったり、顎になったりしていくんです。「顔がカッコイイ」とか言ってますが、なんのことはない、魚の頃はエラだったんです。福山くんもエラ、北川さんもエラだったんです。人類がこぞってネックレスなどで首を飾るのは、首に古い鰓の感覚が残っており、遠い海の故郷へのノスタルジアのためでしょうか……。

何事にも例外があります。体の中に肺を閉じ込められずに「エラのまんま、外にむき出しで（外鰓）、両生類になれずに「魚類と両生類の真ん中のまんま取り残された」という生物もいます。それが、ウーパールーパーです。

話が随分横にそれましたが、禁煙はなかなか難しい。たばこを吸うと「呼吸器に悪影響がでますよ、声が変わりますよ」というのは、ある程度納得していただけるでしょう。では、「人相が悪くなりますよ」と言ったら、少しは禁煙する気になっていただけるでしょうか。

最後になぞかけです。「倦怠期の夫婦」とかけて「治りかけのインフルエンザ」と解く。その心は、〇〇はさめたが、〇〇は残る。

#### 参考文献

三木成夫：内蔵と心。河出文庫，2013。

布施英利：人体 5 億年の記憶。鳴海社，2017。

令和 2 年 1 月

九州保健福祉大学  
健康管理センター長  
園田 徹

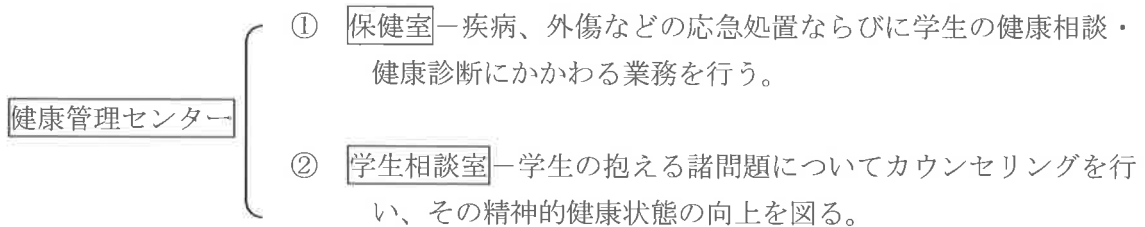
# 目次

I.	組織構成ならびに構成員	1
II.	学生相談室の利用状況と今後の課題	2
III.	保健室の利用状況と今後の課題	4
IV.	付録	
	1. 風疹と風疹ワクチン	7
	2. 学内AED設置場所	

## I 組織構成ならびに構成員

### 1. 組織構成

平成 18 年度までは、健康管理センターは主として学生相談のみを実施してきたが、平成 19 年度に機構改編を行い、従来の業務である学生相談業務に保健業務も加え、学生の心身の問題に包括的に取り組める体制となった。



### 2. 平成 30 年度構成員

構成員は以下のとおりであり、それぞれの専門領域に応じて学生相談室業務と保健室業務を分担して実施した。

- ・センター長 園田 徹
- ・専門委員 佐藤 圭創
- （学生相談） 田中 陽子
- 前田 直樹
- 内勢 美絵子
- 貫 優美子
- ・学生相談員 甲斐 十貴枝
- ・事務職員 黒川 真舟（学生課と兼務）

## Ⅱ 学生相談室の利用状況と今後の課題

### 1. 学生相談室の利用状況

平成 30 年度の学生相談室の利用者は実数合計 35 件、延べ数合計が 143 件で前年度よりも実数、延べ数ともに増加した。相談件数は 6 月が最も多く、ついで 11 月、7 月の相談件数が多くなっていた。30 年度の特徴として、前年度相談件数の少なかった 6 月、7 月の利用が非常に多かったという点があげられる。また、相談件数が前期、後期ともに増加しており、前年度よりも時期の影響を受けていない。相談内容は、「適応問題」と「健康問題」が多くなっている。「適応問題」は依然増加傾向にあり、今年度は特に前期に集中している。一方、「健康問題」は、昨年度よりも 3 倍ほど増加しており、様々な要因で心理的な問題を抱えている学生が増加していると考えられる。また、昨年度は男子の相談件数が多かったのに対して、本年度は女子の相談が男子の 2 倍近くになっており、女子学生が様々な問題を抱えて学生相談を利用していることがわかった。学部別の利用件数では、薬学部の利用件数が 1 番多く、次いで、社会福祉学部、保健科学部、生命医科学部となっており、生命医科学部の利用は非常に少なかった。学年別の利用者数では、2 年次の利用者が他の学年よりもかなり多く、前年度の傾向と異なった傾向を示した。

### 2. 今後の課題

30 年度は前年度に比べて学生相談室利用者が増加し、前年度同様「適応の問題」に関する相談が最も多かった。近年、大学生の対人関係、コミュニケーション、社会的スキルの問題が指摘されている。SNS をはじめとするコミュニケーションツールの発達により、学生同士のコミュニケーションのパターンも変化し、またそれに伴う対人関係の問題が増加している。今後は、適切なコミュニケーションツールの使い方の指導や、社会的スキル向上を目指した SST など学生相談室でより積極的に行っていく必要がある。また、今年度大幅に増加した「健康問題」に関しては、精神疾患等で精神科に通院して服薬している学生の増加に伴い、今後、健康問題に関する相談件数が大幅に減少する可能性は低い。したがって、健康管理センターは、これまで以上に支援体制を整え、問題の早期対応、早期解決を目指して様々な学生の問題に対して他機関と連携しながら迅速に支援していく必要がある。

前田直樹

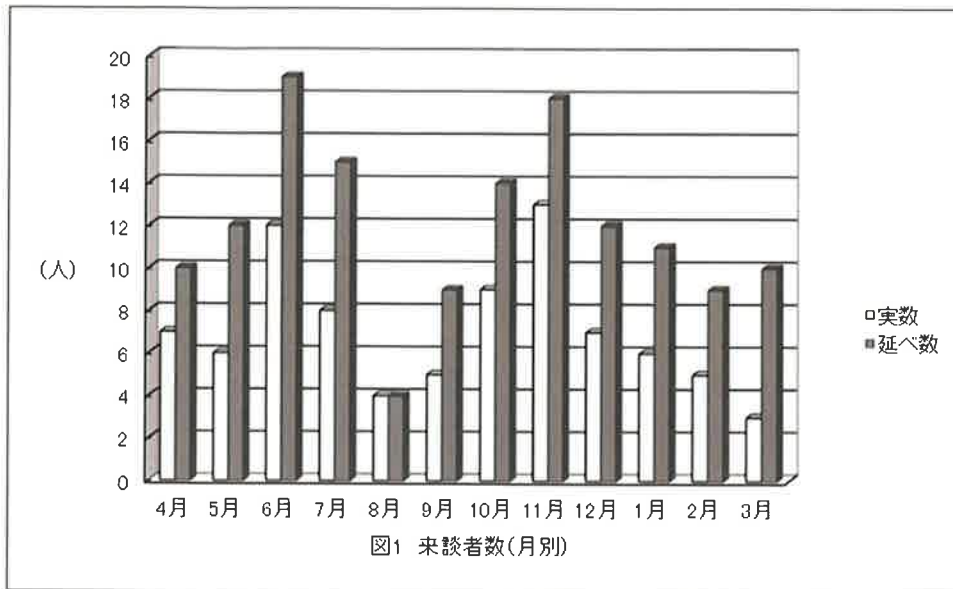
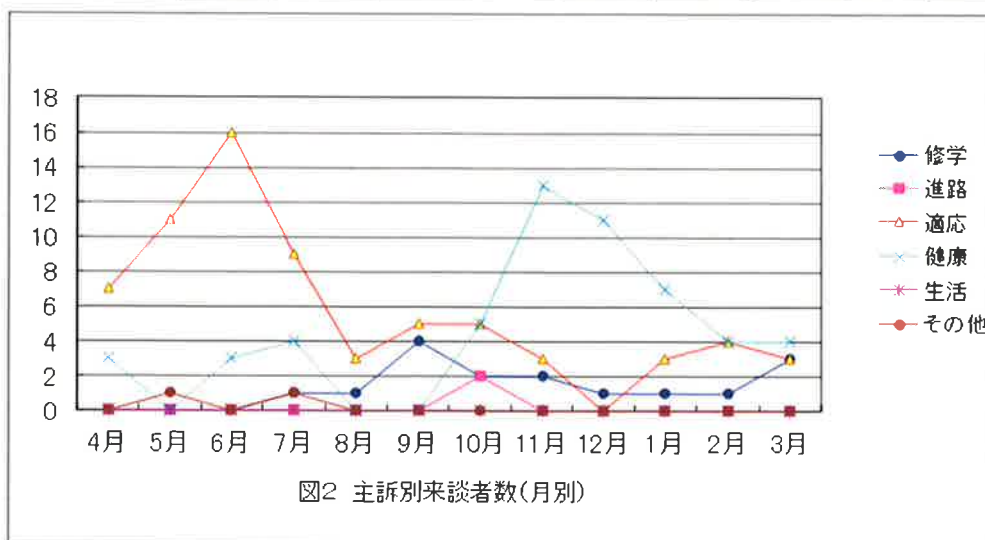


表1 学部別学年別来談者数(年間)

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	通信他	実数合計	延べ数合計
		社会福祉学部	男	2	2	2				
	女	1	4					1	6	23
保健科学部	男	1	1	1	1				4	11
	女	1		1				1	3	20
薬学部	男	1	1		3				6	10
	女	1	1	1	1		1		5	47
生命医科学部	男		1		1				2	10
	女		2		1				3	7
合計	男	4	5	3	5				18	46
	女	3	7	2	2		1	2	17	97
	計	7	12	5	7		2	2	35	143



### Ⅲ 保健室の利用状況と今後の課題

#### 1. 保健室の利用状況

平成 30 年度の保健室利用者総数（累計）は 628 名（学生 559 名、教職員 55 名、その他 14 名）で昨年度より 36 名の減少であった。

所属別の利用状況は社会福祉学部 32%、保健科学部 31%、薬学部 20%、生命医科学部 6%であった。教職員の割合は 9%であった。（図 3.表 3）

月別の利用状況をみると、内科症状は 6、10、1 月の利用が多く、症状別では風邪症状が年間を通して最も多かったが、5、10～1 月に目立った。外科症状は 7 月の利用が多かったが、症状別では、擦り傷や切り傷での利用が多く 4、5 月に目立った。昨年度多かった虫刺されは約半分に減少した。（図 4. 5）

曜日別の利用状況をみると、月～水曜日の週の前半が多い傾向。時間帯別では、例年同様、12 時帯（20.4%）、ついで 10 時帯（16.6%）の利用が多かった。（図 6. 7）

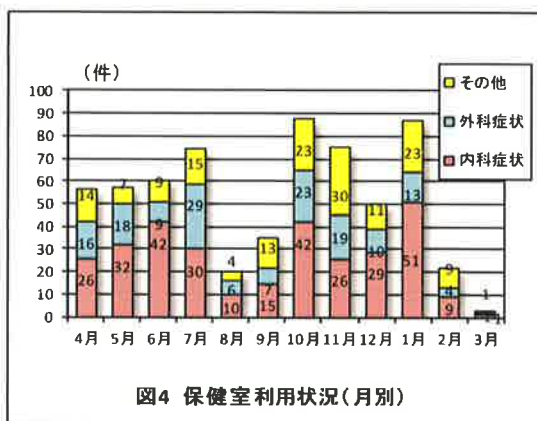
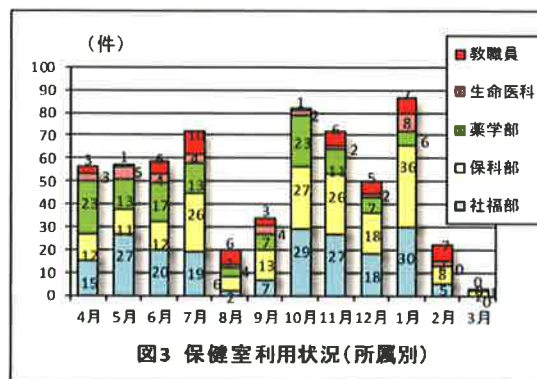
年間のベッド休養者は 137 名で昨年より減少したが、内科症状者数 313 名に対して休養者は 129 名（41.2%）で増加。そのうち精神的不調での休養者数は 25 名（19.3%）であった。睡眠目的の休養者は 8 名で昨年の 1/4 以下であった。

ベッド休養時間帯では 12 時帯（24.1%）が一番多く、ついで 14 時帯（18.2%）であったが 9 時帯（11.7%）や 8 時帯の利用もあった。（図 4～8.表 2）

居場所としての利用や改まった相談まではないが話をしに来た学生の数は 34 名（6.0%）であった。

#### 2. 今後の課題

本年度は休養（睡眠）の利用は大幅に減少したが、居場所としての利用、気持ちを吐露する場所としての利用が増えた。精神的不調で休養する学生も増加してきている。また精神疾患等で通院している学生も多い。引き続き学生相談室、学生課や各学科と情報共有を密に行い連携を取って支援するとともに、対人関係、コミュニケーションスキルに対する支援をしていく必要もあると考える。また内科症状者のベッド休養率も増加傾向にあり、自己健康管理に対する意識を高める支援もより必要である。





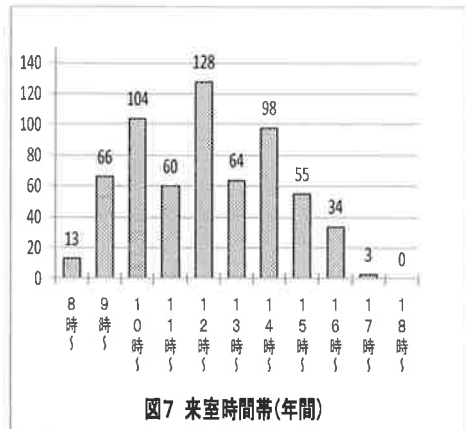
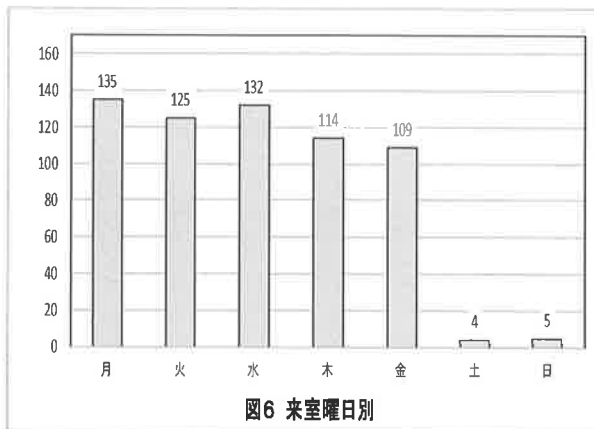
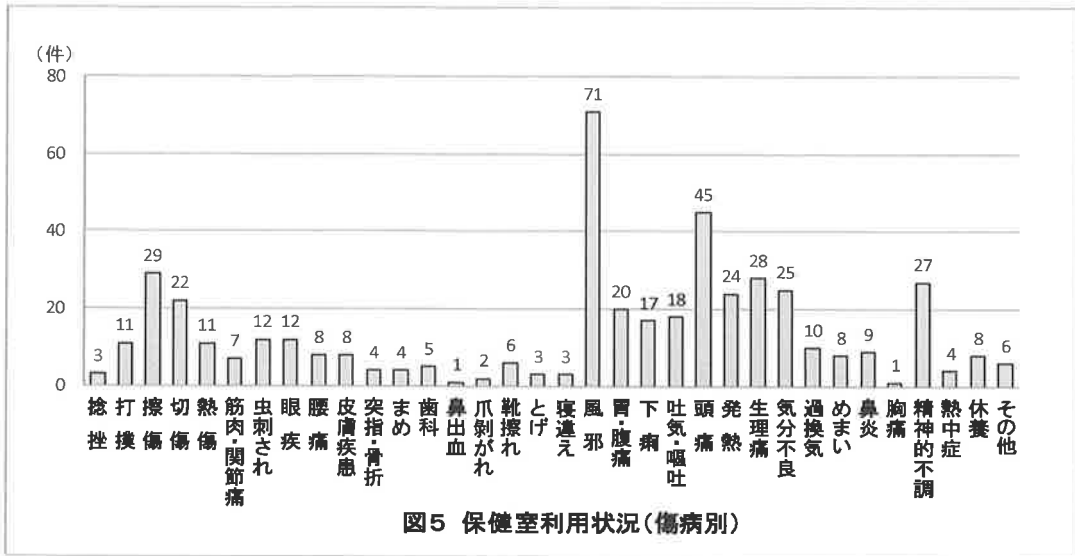


表2 ベッド休養処置・受診及び受診勧告件数

	休養	受診	受診勧告
4月	11	2	1
5月	12	2	3
6月	26	1	3
7月	19	0	2
8月	4	1	1
9月	8	0	1
10月	14	1	2
11月	8	1	1
12月	15	0	3
1月	20	4	5
2月	0	0	0
3月	0	0	0
計	137	12	22

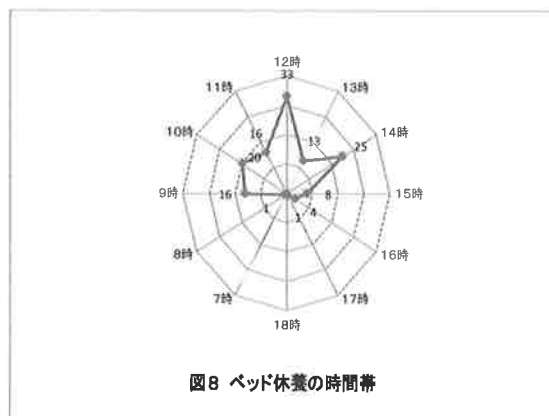


表3 平成30年度保健室利用状況

社会福祉学部

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	6	1	5	1	2	0	15
5月	5	9	6	1	5	1	27
6月	11	4	1	0	3	1	20
7月	7	3	8	1	0	0	19
8月	2	0	0	0	0	0	2
9月	1	0	1	2	3	0	7
10月	9	7	7	3	3	0	29
11月	9	5	4	0	8	1	27
12月	7	6	1	0	4	0	18
1月	9	8	3	1	6	3	30
2月	3	0	0	1	1	0	5
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	69	43	36	10	35	6	199

薬学部

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	2	5	6	0	0	10	23
5月	4	3	3	3	0	0	13
6月	2	14	0	1	0	0	17
7月	1	5	1	1	2	3	13
8月	1	0	1	0	0	2	4
9月	0	2	0	1	0	4	7
10月	2	9	4	5	0	3	23
11月	0	3	2	2	1	3	11
12月	1	2	1	3	0	0	7
1月	3	2	0	1	0	0	6
2月	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	1	0	1
合計	16	45	18	17	4	25	125

保健科学部

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	0	8	2	1	1	0	12
5月	3	4	2	1	1	0	11
6月	2	3	0	6	1	0	12
7月	2	6	1	11	4	2	26
8月	2	1	1	1	1	0	6
9月	4	1	1	1	6	0	13
10月	5	4	2	2	10	4	27
11月	2	2	2	4	13	3	26
12月	2	3	2	2	8	1	18
1月	7	6	2	5	10	6	36
2月	1	0	0	2	3	2	8
3月	1	0	0	1	0	0	2
合計	31	38	69	37	58	18	197

生命医科学部

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	0	2	0	1	0	0	3
5月	0	4	0	1	0	0	5
6月	0	4	0	0	0	0	4
7月	0	4	0	0	0	0	4
8月	1	1	0	0	0	0	2
9月	1	2	1	0	0	0	4
10月	0	1	0	0	0	1	2
11月	0	0	0	2	0	0	2
12月	0	1	0	0	1	0	2
1月	4	4	0	0	0	0	8
2月	1	1	0	0	0	0	2
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	24	1	4	1	1	38

その他

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	1	0	0	0	0	1
7月	0	0	1	1	0	0	2
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	1	0	0	0	0	1
10月	2	3	0	0	1	0	6
11月	0	0	0	0	0	4	4
12月	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	5	1	1	1	4	14

教職員

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	0	2	0	1	1	0	3
5月	0	0	0	1	0	0	1
6月	0	1	1	0	2	2	6
7月	0	2	3	1	3	1	10
8月	0	2	3	0	0	1	6
9月	2	0	0	0	1	0	3
10月	0	0	0	0	1	0	1
11月	2	1	3	0	0	0	6
12月	1	1	1	0	0	2	5
1月	0	2	1	0	2	2	7
2月	3	0	0	1	2	1	7
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	11	12	3	12	9	55

総計(男女/症状別)

	内科症状		外科症状		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	8	18	13	3	4	10	56
5月	12	20	11	7	6	1	57
6月	15	27	2	7	6	3	60
7月	10	20	14	15	9	6	74
8月	6	4	5	1	1	3	20
9月	8	6	3	4	10	4	35
10月	18	24	13	10	15	8	88
11月	13	11	11	8	22	11	76
12月	10	14	5	5	13	3	50
1月	23	22	6	7	18	11	87
2月	8	1	0	4	6	3	22
3月	1	0	0	1	1	0	3
合計	132	167	83	72	111	63	628

総計(所属別)

	社福部	保科部	薬学部	生命医科	教職員	他	合計
	男	女	男	女	男	女	
4月	15	12	23	3	3	0	56
5月	27	11	13	5	1	0	57
6月	20	12	17	4	6	1	60
7月	19	26	13	4	10	2	74
8月	2	6	4	2	6	0	20
9月	7	13	7	4	3	1	35
10月	29	27	23	2	1	6	88
11月	27	26	11	2	6	4	76
12月	18	18	7	2	5	0	50
1月	30	36	6	8	7	0	87
2月	5	8	0	2	7	0	22
3月	0	2	1	0	0	0	3
合計	199	197	125	38	55	14	628

(甲斐十貴校)

## IV 付録

### 1 風疹と風疹ワクチン

九州保健福祉大学 薬学部 臨床生化学講座教授

九州保健福祉大学 健康管理センター委員 (医師・産業医)

佐藤 圭創

### 2 AED 設置マップ



## 風疹と風疹ワクチン



- 本年度は、例年になく風疹感染者が多く大きな問題になっています。
- 風疹は、妊婦に感染すると、さまざまな障害を持った子供が生まれる可能性があります。
- 即ち、妊婦さんに感染が及ばないように社会的な対応が望まれているのです。
- そこで今回、風疹とそのワクチンについてテーマにあげ、概説したいと考えております。

## 風疹(rubella)

- 風疹(rubella)は、発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性発疹症である。
- 近年国内においてもその発生は減少傾向にあるが、まれに見られる**先天性風疹症候群**予防のために、妊娠可能年齢およびそれ以前の女性に対するワクチン対策が重要な疾患である。



癒合性のない小さい皮疹



## 風疹(三日はしか)と麻疹(はしか)のちがいは

- 発熱と発疹が出るタイミングが違う。  
**はしかは高熱がいったん下がった後に発疹が出ます。**
- 一方、**風疹は**
  - 発熱と発疹がほぼ同時に現れる。
  - 発熱は比較的低温、熱が出ないケースもある
  - 発疹はまず**耳の後ろ**や顔にでて、**頭、胴体、手足**へと広がる。手足に出る頃に顔の発疹は消え始め、3日前後で消える
  - 発疹が出る数日間前からリンパ節が腫れ、発疹が出ている間がもっとも症状が強い。2~3週間で回復する
  - **コプリック斑**がでる**事はない**
  - 全身の**だるさ、頭痛、食欲不振、目の充血、鼻汁、咳、喉の痛み**等の症状もでる
  - 発疹の**後の色の色素沈着はない**

## 皮疹の違い

- 麻疹はそれぞれの赤い斑点(紅斑といいます)がお互いにくっつき合い、次第に地図のような大きな斑点になっていき、典型的な経過では身体全体が紅くなって、その赤い皮膚の間に普通の皮膚の色が残っているような像となります。
- 風疹では、**おのおのの発疹は決して融合せず**(ひっつかず)、最後までパラパラとした感じの発疹のまま経過します(豹の斑点を紅くしたようなものを想像して頂ければ結構です)。
- 麻疹の発疹: ぼたん雪、風疹の発疹: 粉雪

「麻の服にボタン、風に舞う粉雪」



## 先天性風疹症候群

- 妊娠前半期の妊婦の初感染により、風疹ウイルス感染が胎児におよび、先天異常を含む様々な症状を呈する先天性風疹症候群 (congenital rubella syndrome: CRS) が高率に出現することにある。
- 妊娠中の感染時期により重症度、症状の発現時期が様々である。
- 先天異常として発生するものとしては、**先天性心疾患、難聴、白内障、網膜症**などが挙げられる。
- 先天異常以外に新生児期に出現する症状としては、**低出生体重、血小板減少性紫斑病、溶血性貧血、間質性肺炎、髄膜炎**などが挙げられる。
- 以後に発症するものとしては、**進行性風疹全脳炎、糖尿病**などがある。



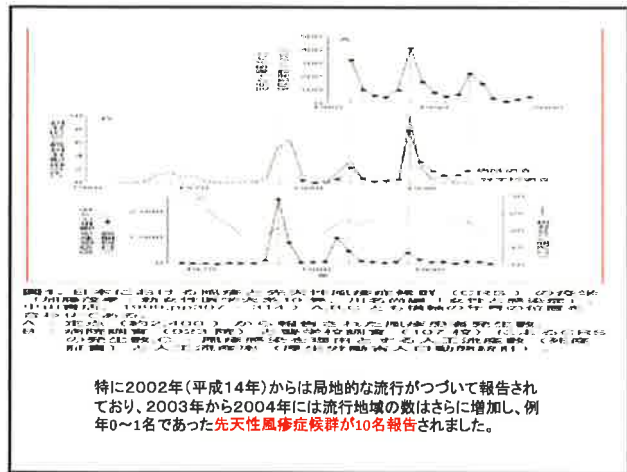
妊婦、夫、家族、関係者  
+  
日本の風疹流行を避ける  
**ワクチン**

**先天性風疹症候群：白内障**

CRJの診断方法は、症状、ウイルス遺伝子検査以外に、CRJ抗体は胎盤通過をしないので胎盤血や胎児血からの風疹IgM抗体の検出が育後は感染の証拠である。出生前に感染した乳児は、出生後数ヶ月免疫能力を持ち続ける。


典型的な三大症状は、心奇形、聴力障害として難聴、眼の異常として白内障。

風しんに感受性のある妊婦20週までの妊婦が風疹ウイルスに感染すると、出生児が先天性風疹症候群を発症する可能性があります。



### 抗体検査、ワクチン接種の値段 医療機関によってことなる(例示参照)

麻疹 (1日1回) 抗体検査	¥4,000 (税込)
風疹 (3日1回) 抗体検査	¥4,000 (税込)
ムンプス (おたふく病) 抗体検査	¥4,000 (税込)
麻疹 (1日1回) ワクチン	¥5,500 (税込)
風疹 (3日1回) ワクチン	¥5,500 (税込)
ムンプス (おたふく病) ワクチン	¥6,000 (税込)



**対象者** 実施期間：平成31年4月～令和2年3月末日まで  
宮崎県民(宮崎市民を除く)で妊娠を希望する女性とその配偶者または同居するパートナー抗体価が低い妊婦の配偶者または同居するパートナー

注意：婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある方も対象。ただし、次の方は**対象外**です。  
1・2のうち、過去に抗体検査(妊婦健康診査を含む)を受けたことがある方  
予防接種を2回受けたことがある方  
風しんにかかったことがある方  
昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性(平成31年度から市町村において実施される風しんの追加的対策の対象と重複するため)

宮崎県版 ~先天性風しん症候群の発生予防のために~

## 平成31年度 風しん抗体検査について

風しんの感染は多くてしるみや喉のしこりなどで感染しやすく、症状は発熱、リンパ節の腫れ、関節痛の痛みなどです。一般的に症状は軽く、数日で治りますが、風しんに対する免疫能力が不十分な女性が妊娠初期(妊娠20週頃まで)に感染すると、胎児が先天性風疹症候群(心臓や心臓、耳などに障害が出ること)になる可能性があります。注意が必要です。

抗体検査の結果、抗体価が低かった場合はワクチン接種を1(妊娠中は予防接種はできません)。

昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性は平成31年から市町村によって実施される風しんの追加的対策の対象となりますので、本事業では**対象外**となります。

★対象者  
1 宮崎県民(宮崎市民を除く)で妊娠を希望する女性とその配偶者または同居するパートナー(夫婦)。  
2 抗体価が低い妊婦の配偶者または同居するパートナー(夫婦)。  
ただし、次の方は**対象外**です。  
① 抗体検査を2回受けたことがある方  
② 予防接種を2回受けたことがある方  
③ 昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性(平成31年度から市町村によって実施される風しんの追加的対策の対象と重複するため)

★実施医療機関 市町村、フリースクール、福祉センター等  
★実施期間 平成31年4月1日から令和2年3月31日まで  
★実施内容 麻疹、風疹、ムンプス(おたふく病)の抗体検査  
★費用 抗体検査は無料(検体検査料は別途)。  
★予約 市町村の保健センター、保健所、保健センター等から予約可能。  
★問い合わせ先 (TEL) 0985-22-2222

## 昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性の方は...

市町村において実施される風しんの追加的対策の対象の方(昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性)には、お住まいの市町村より風しん抗体検査及び予防接種のクーポン券が配布されます。詳細は、お住まいの市町村役場や保健センターへお問い合わせください。

**この年代の男性の皆様には、過去に公的に予防接種が行われていない**

昭和47年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性へ、今年度(令和元年度)、お住まいの市町村から、風しん抗体検査と予防接種のクーポン券をお届けします。

※昭和37年4月2日～昭和47年4月1日生まれの男性には、来年度以降にお届けします。市町村によっては今年度中に市町村で受け取ることもできます。ご希望の方は、お住まいの市町村にお問い合わせください。

風しんの追加的対策について

## 抗体検査で陰性(抗体がない)

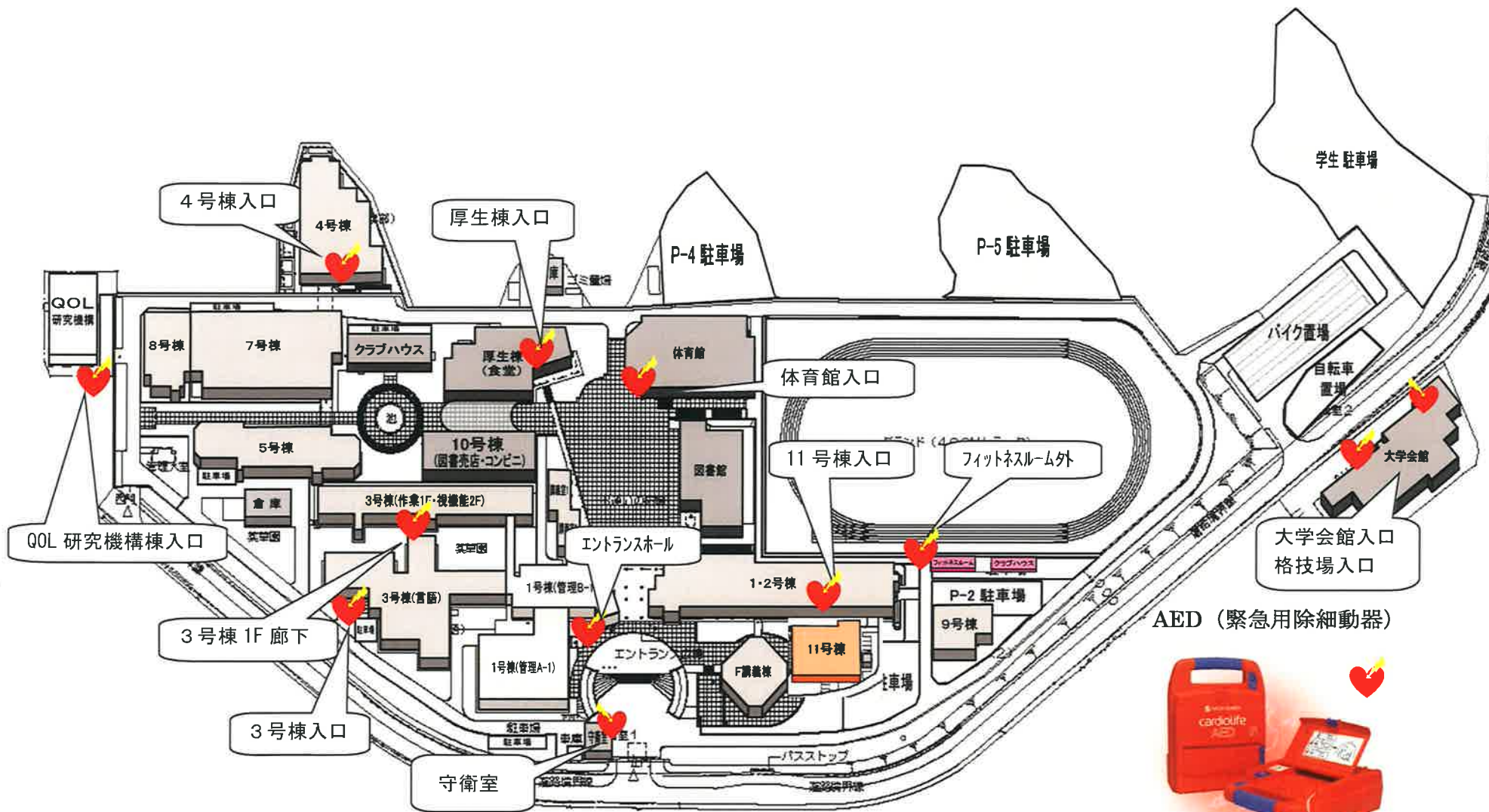
- 昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性  
⇒ 無料でワクチン接種できる
- 昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性以外の対象者  
⇒ 無料でワクチン接種できる

## 最後に

- 風疹について理解し、妊婦に感染が及ばないように、個々人がしっかり自覚をもって、ワクチン接種や抗価測定をすることが、何よりも重要と考えます。

文責：佐藤圭創

# AEDマップ



AED (緊急用除細動器)



九州保健福祉大学

**平成 30 年度 健康管理センター 活動報告書**

令和 2 年 1 月 発行

表紙装丁 甲斐 十貴枝

写真 前田 直樹 (社会福祉学部 教授)

オランダ (ライデン)

発行者 九州保健福祉大学 健康管理センター

〒882-8508 宮崎県延岡市吉野町 1714-1

Tel. 0982-23-5555 (代表)

印刷所





九州保健福祉大学  
平成 30 年度  
健康管理センター 活動報告書